

- 本製品は、ケーシングタイプ薄壁用は壁厚(111~141mm)、厚壁用は壁厚(142~182mm)に取付けられます。
- ノンケーシングタイプNC156は壁厚(116~130mm)、NC171は壁厚(131~145mm)、NC180は壁厚(146~160mm)に取付けられます。

■施工される方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

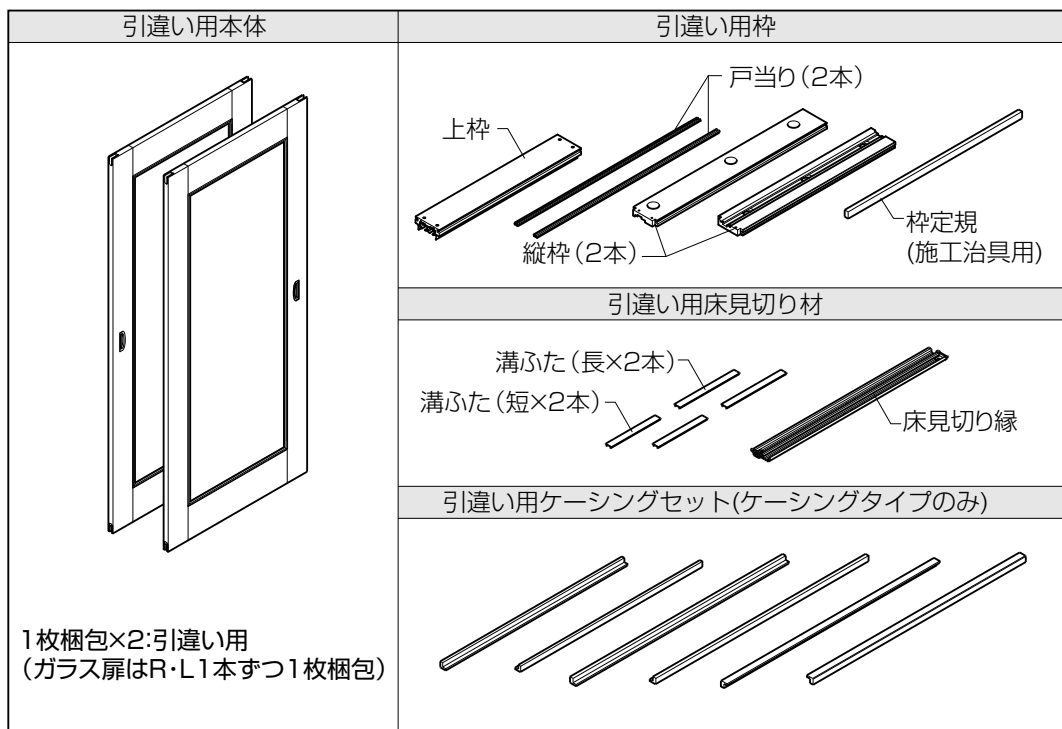
- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が落下するおそれがあります。

■施工上のお願い

- 縦枠は床上面より12mm長く設定してあります。納め方により切詰めが必要になります。詳しくは下記「**■縦枠の切り詰め**」をお読みください。記載内容に従わないと床面と本体チリ寸法が設定通りにならなくなります。
- 本製品にねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。本説明書内で「現地手配」と記されている場合は除きます。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤を併用してください。かい木を使用する場合、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくって納めてください。
- 縦枠と柱・間柱とのすき間は枠固定金具を調整して柱とあてて、内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合は、かい木を入れてください。上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
- かい木は合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 本製品は上吊り方式を採用しています。はり(まぐさ)は、強度を増すため、断面寸法105×180(mm)以上を使用してください。上枠の垂下がりの原因になります。
- ガイドピンは「**■ガイドピンの取付け**」に従い取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。
- 本体にガムテープ・クラフトテープ等の粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープ等粘着力の弱いものを使用してください。
- 現場で使う接着剤は、「F★★★★」又はノンホルムタイプを使用してください。

■部品・部材の明細

※枠はノックダウン、本体は完成品



■枠セット

		引違い用	片引き用
枠	上枠	1	1
	縦枠	2	1
	中縦枠	-	1
	小縦枠	-	1
	幅木	-	1
	戸当り	2	1
部品	引違い用	1	-
セット	片引き用	-	1

(引違い用)

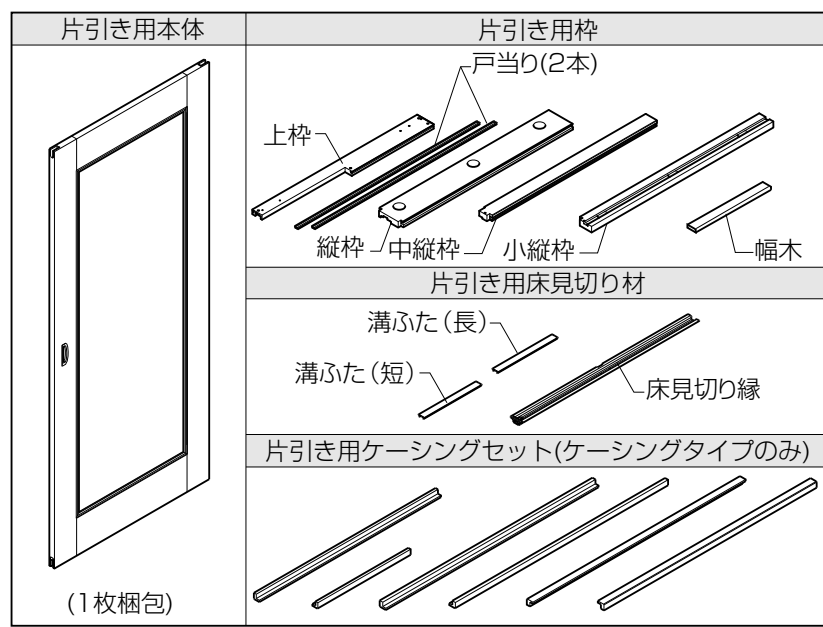
組立て用皿小ねじM4×50	4本
上枠取付け用トラスタッピンねじφ4×60	※9本
縦枠取付け用なべタッピンねじφ4×40	6本
ガイドピンセット	2セット
吊車	4個

※予備用4本含む

(片引き用)

組立て用皿小ねじM4×50	4本
上枠取付け用トラスタッピンねじφ4×60	※9本
縦枠取付け用なべタッピンねじφ4×40	6本
ガイドピンセット	1セット
吊車	2個

※予備用4本含む



〔引違い用床見切り縁部品セット〕

床見切り縁用ガイドピン	2本
床見切り縁用ガイドピンカバー	2個
なべタッピンねじφ4×40	10本

〔引戸錠セット〕

サムターン本体	1個
サムターン取付け用皿小ねじM3×10	2本

〔片引き用床見切り縁部品セット〕

床見切り縁用ガイドピン	1本
床見切り縁用ガイドピンカバー	1個
なべタッピンねじφ4×40	8本

〔片引き幅広/バーハンドルセット〕

バーハンドル・オス	1個
バーハンドル・メス	1個
ベース固定用皿小ねじM5×20	2本
取付け説明書	1個

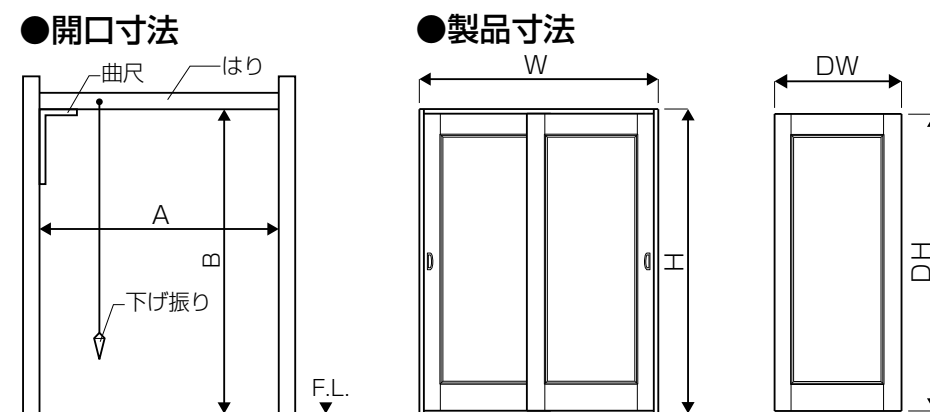
開口部の作り方

開口部寸法の出し方

開口A寸法 = 製品寸法(W) + 5mm

開口B寸法 = 製品寸法(H) + 5mm

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。
 ※本製品は、上吊り方式を採用しています。はり(まぐさ)は、強度を要するため、断面寸法105×180(mm)以上を使用してください。



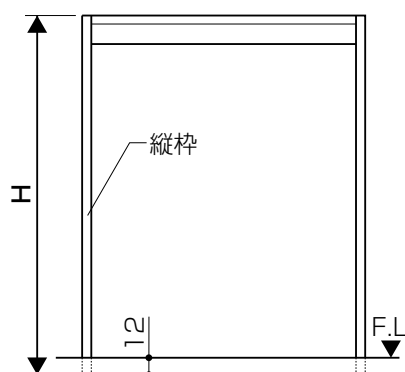
取付け順序

1 縦枠の切り詰め

●縦枠は、床上面より12mm長く設定してあります。縦枠の納め方により下端の切詰めが必要になります。(床面と本体下部のチリ寸法が8mmになるように設定してあります。)

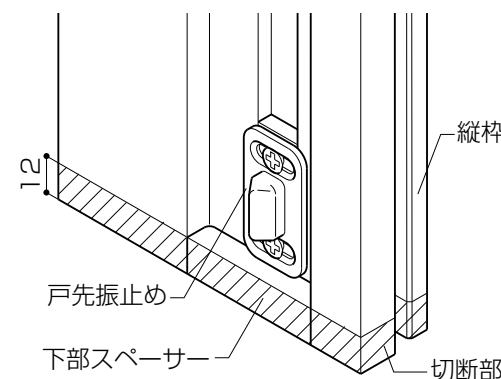
1) 床後張り(枠先付け)の場合

●縦枠の切詰めは、必要ありません。なお、15mm厚の床材を使用する場合、縦枠(中縦枠、小縦枠)の下に3mm厚の木端(現場手配)が必要となります。
 ※12mm厚未満の床材を使用する場合は、床材を施工後、右記2)「床先張り(枠後付け)の場合」に従ってください。



2) 床先張り(枠後付け)の場合

※床見切り縁材を使用する場合も同じ
 ①下部スペーサーは、必要なくなりますので取除いてください。
 ②床材の厚さに関係なく、縦枠(中縦枠・小縦枠)下端を12mm切詰めてください。



2 枠の組立て

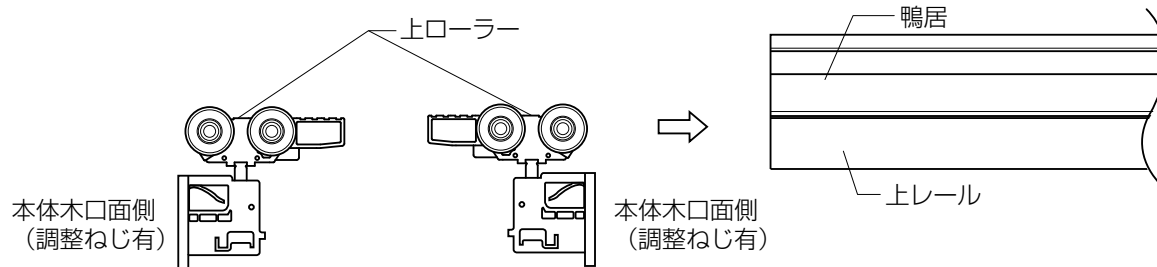
①上ローラーを互いちがいの向きにして上レールに入れてください。

注意

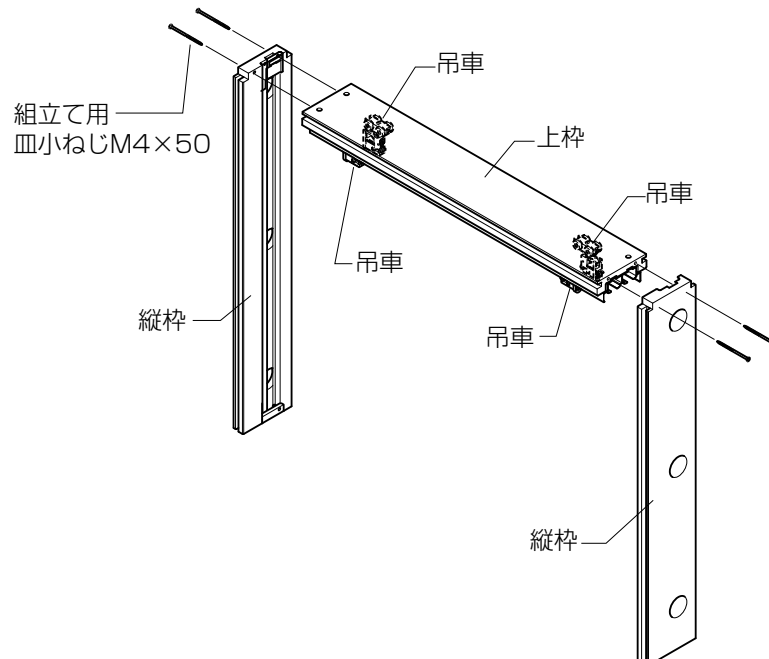
※枠組立て前に鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体のつり込み及び、建付け調整ができません。

②図のように、各部材を組み合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

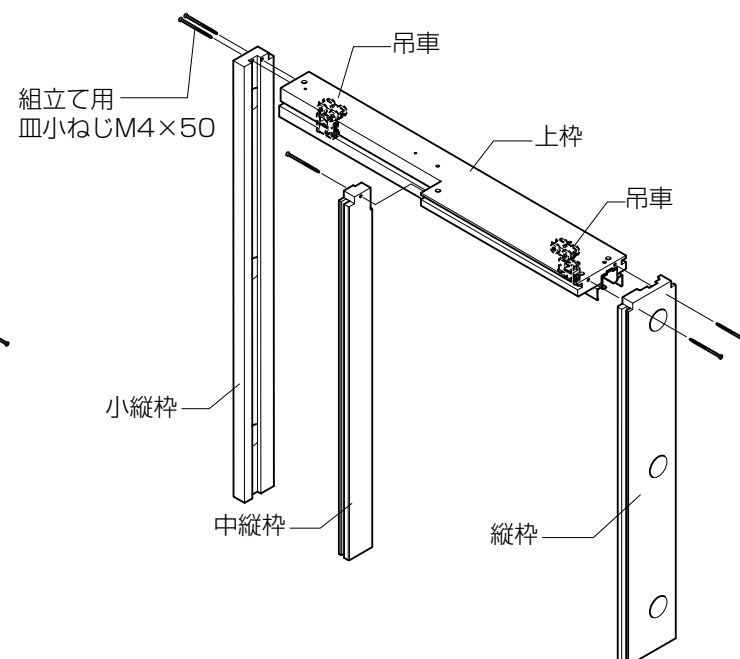
※上ローラーを互いちがいに挿入する



●引違い枠



●片引き枠

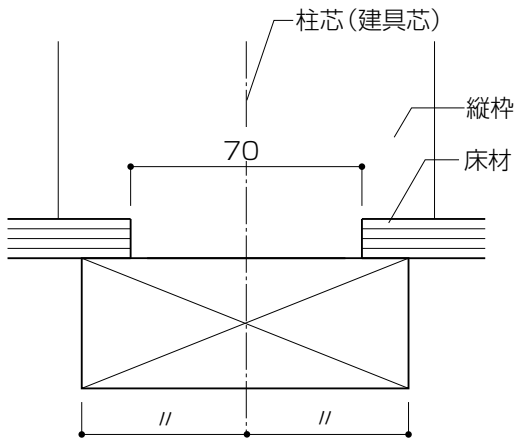


3 床の張り方

〔床先張り(枠後付け)の場合〕※床見切り縁材を使用する場合のみ

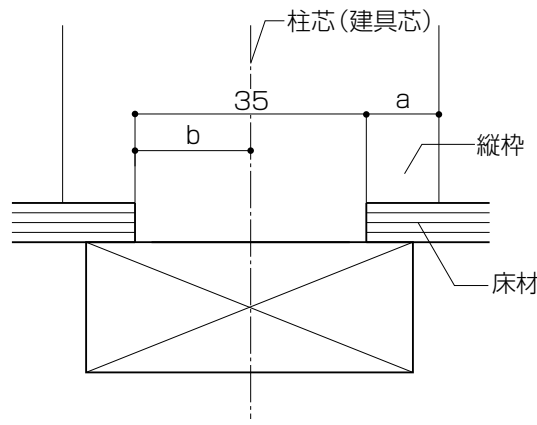
●引違い

※床材は、柱芯(建具芯)を中心に70mmあけて張ってください。



●片引き

※床材は、柱芯(建具芯)より引込み側に35mmあけて張ってください。
柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりa寸法内側に入った所に35mmあけて張ってください。

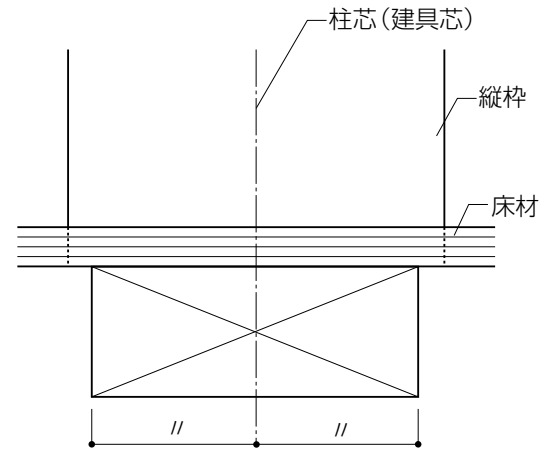


(単位: mm)

枠機種	a寸法	b寸法
NC156	43	0
NC171	58	7.5
NC180	67	12
C付115 (薄壁用)	22.5	0
C付142 (厚壁用)	49.5	13.5

〔床後張り(枠先付け)の場合〕

※枠取付け後、縦枠にそって床材を張ってください。



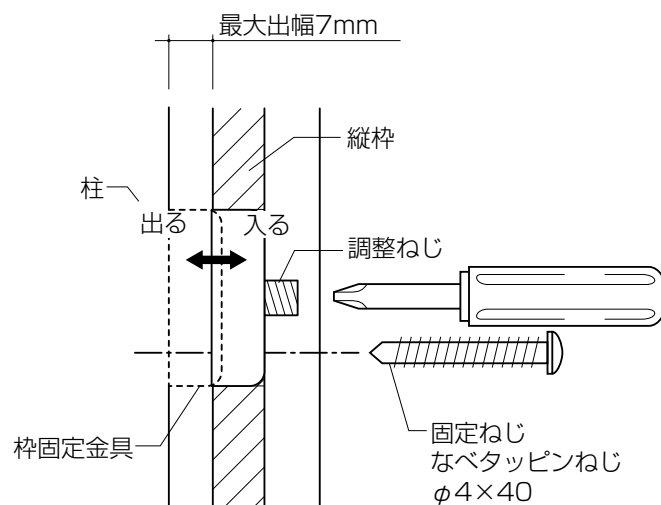
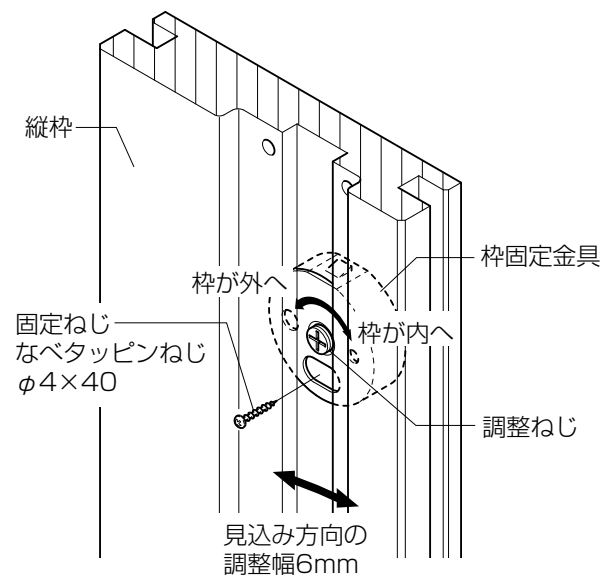
4 枠の取付け

- 縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
- 枠の垂直を確認してください。
- 固定ねじ(なべタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部分より締付けてください。
- 枠の奥行方向の倒れを確認してください。倒れている場合は固定ねじを緩め、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです)調整後ねじを固定してください。
- 枠の垂直を確認してから、枠固定金具の取付いている部分の開口寸法が均等になるように調整してください。
- 再度、枠の垂直を確認してください。

お願い

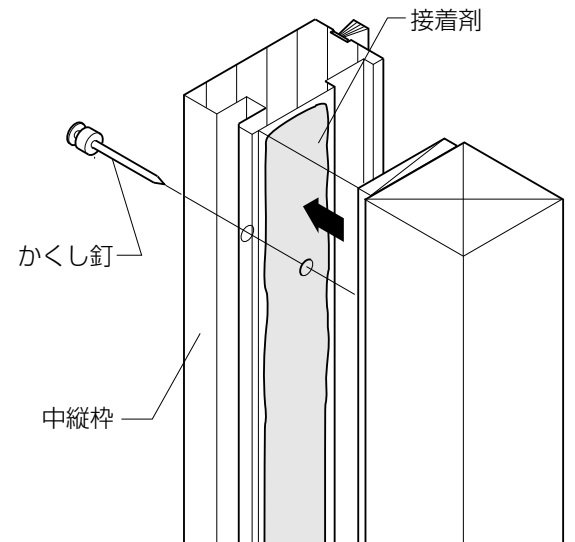
- ※片引き・引分けの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。
- ※枠固定金具の調整には電動ドライバーは使用しないでください。
- ※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

●縦枠・小縦枠



●中縦枠

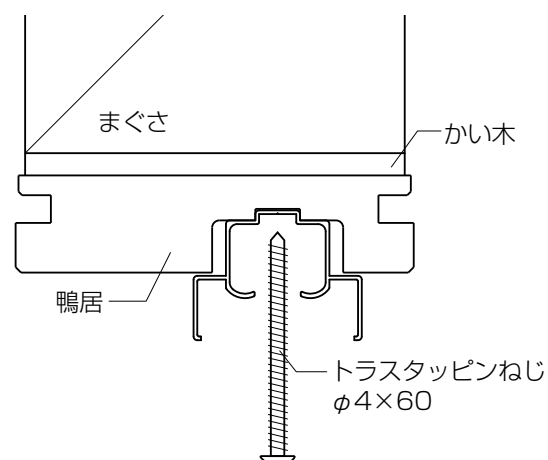
※裏面に接着剤を塗布し、専用のかくし釘で固定します。



⑦鴨居はかい木を入れてトラスタッピンねじφ4×60にて固定してください。

お願い

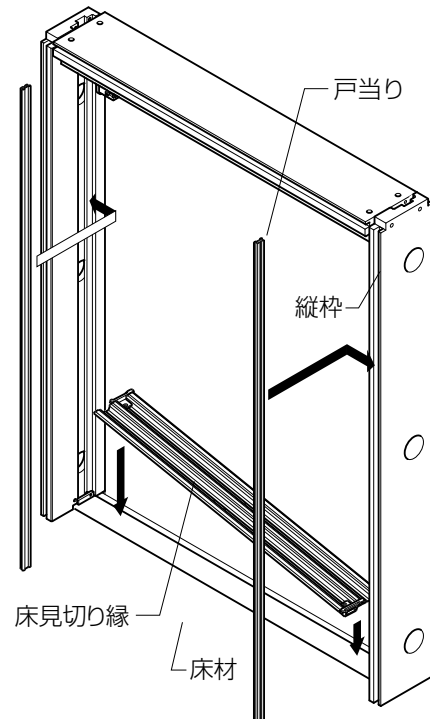
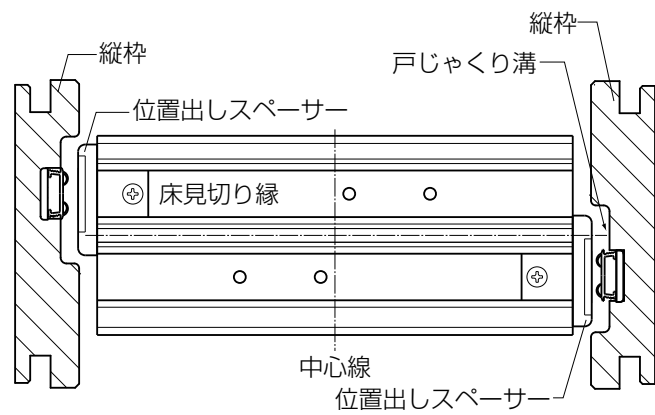
- ※鴨居の躯体固定ねじを締込み過ぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体を吊込んだ時に動きが悪い場合は、ねじを緩めてください。



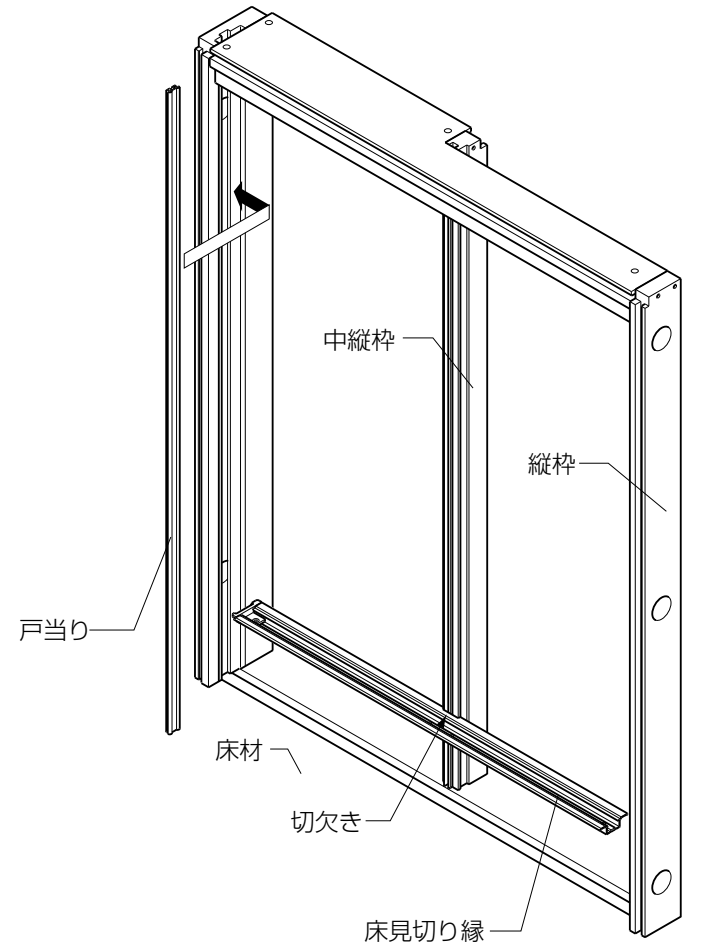
〔床見切り縁の取付け〕

●引違い

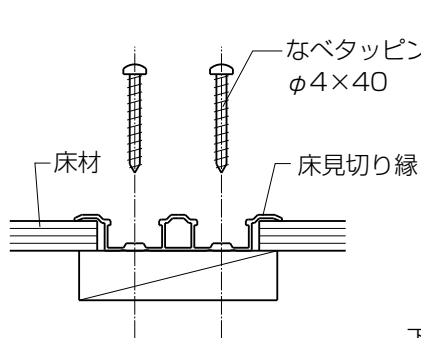
- ①縦枠下部に取付けてある戸先振止めをいったん外します。
 - ②床見切り縁に付いている位置出しスペーサーを、縦枠の戸じゃくり溝に合わせます。
 - ③同梱のねじで固定します。
- ※溝部の中心部の2箇所は床見切り縁用ガイドピンをのちほど取付けますので、あけておきます。
- ④戸先振止めを取付けます。



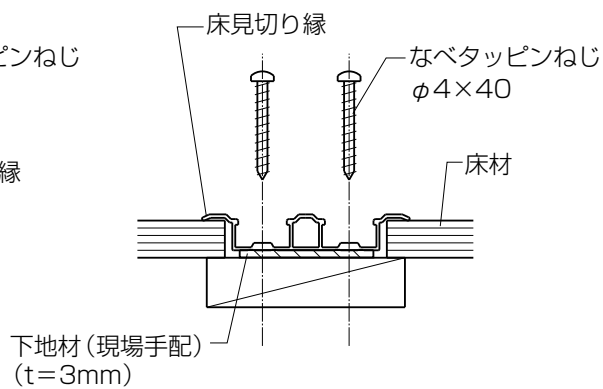
●片引き



〈床材厚さ12mm〉

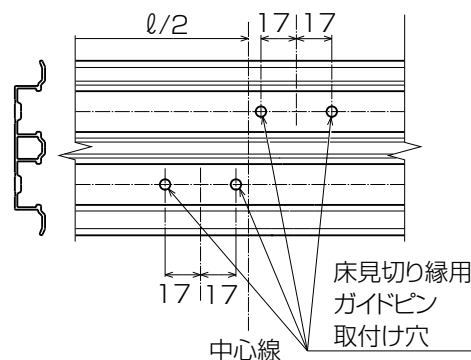


〈床材厚さ15mm〉

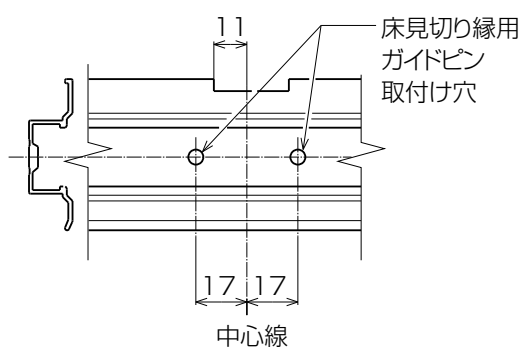


※床見切り縁取付け穴と床見切り縁用ガイドピン取付け穴を間違えないように注意してください。
下図は床見切り縁用ガイドピン取付け穴位置です。

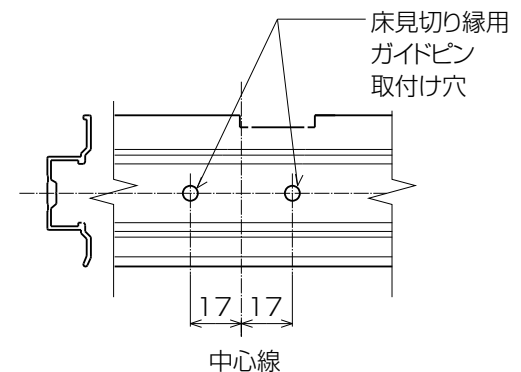
●引違い用床見切り縁



●片引き用床見切り縁標準・幅狭

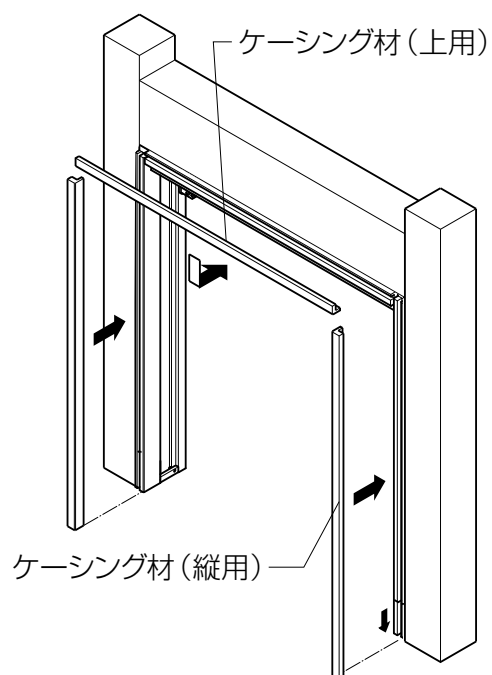


●片引き用床見切り縁幅広



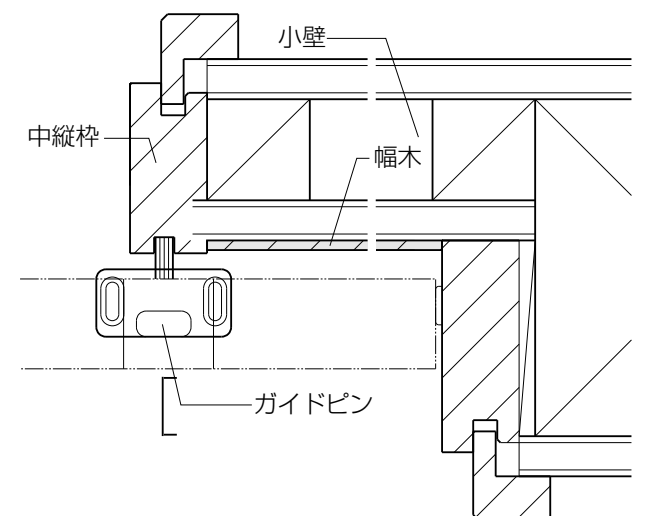
⑤ ケーシング材の取付け (ケーシングタイプのみ)

- 壁材、床材を仕上げた後、ケーシングを取付けます。
- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
 - ②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
 - ③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤を塗布し、ケーシングを固定します。



⑥ 幅木の取付け (片引戸のみ)

※片引戸には小壁のボードと床材を見切るために幅木が同梱されています。現場に合わせてご使用ください。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは200～300mmです。

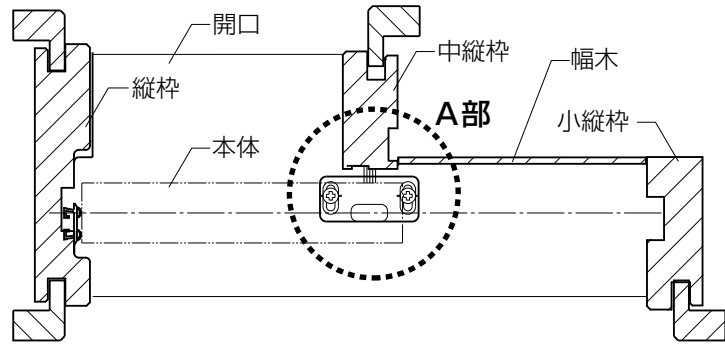


7 ガイドピンの取付け

- ガイドピンを枠に同梱のねじ（なべタッピンねじφ3.5×20）で固定します。
- ※機種により取付け位置が異なります。必ず下記の説明をお読みください。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、A部詳細図に従って取付けてください。

1) 片引き(標準・幅狭(幅広))の場合

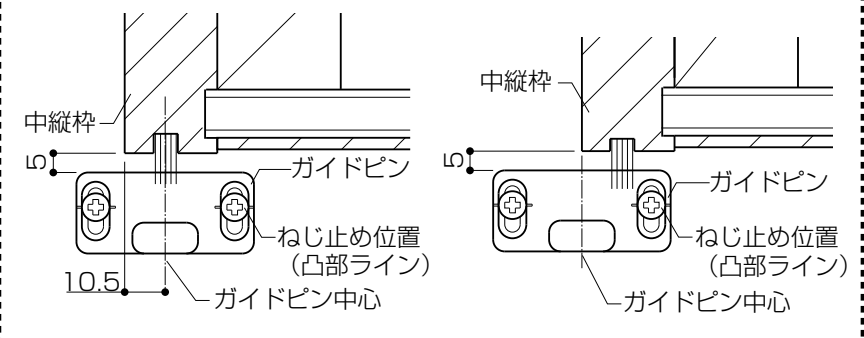
- 図の位置及び向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴（2カ所）の凸印（ライン）の位置にねじ止めしてください。
- ※図は、左勝手を示します。右勝手の場合は、図と左右対称の位置となります。



■A部詳細図

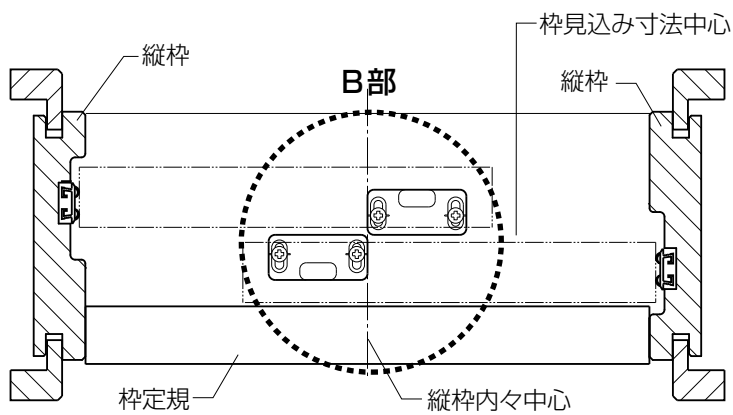
●標準・幅狭の場合

●幅広の場合

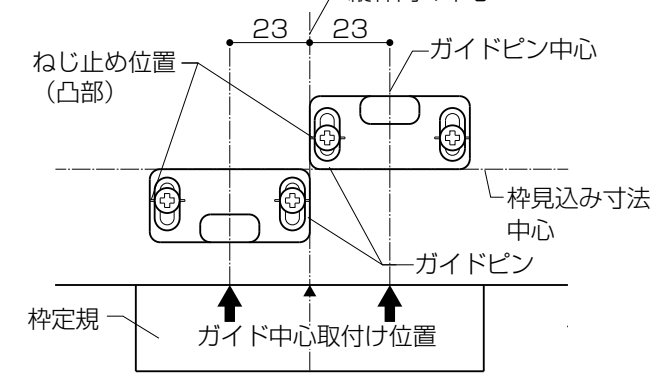


2) 引違いの場合

- ① 枠定規を縦枠の内々に入れます。
- ② 図の位置及び向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴（2カ所）の凸印の位置にねじ止めしてください。



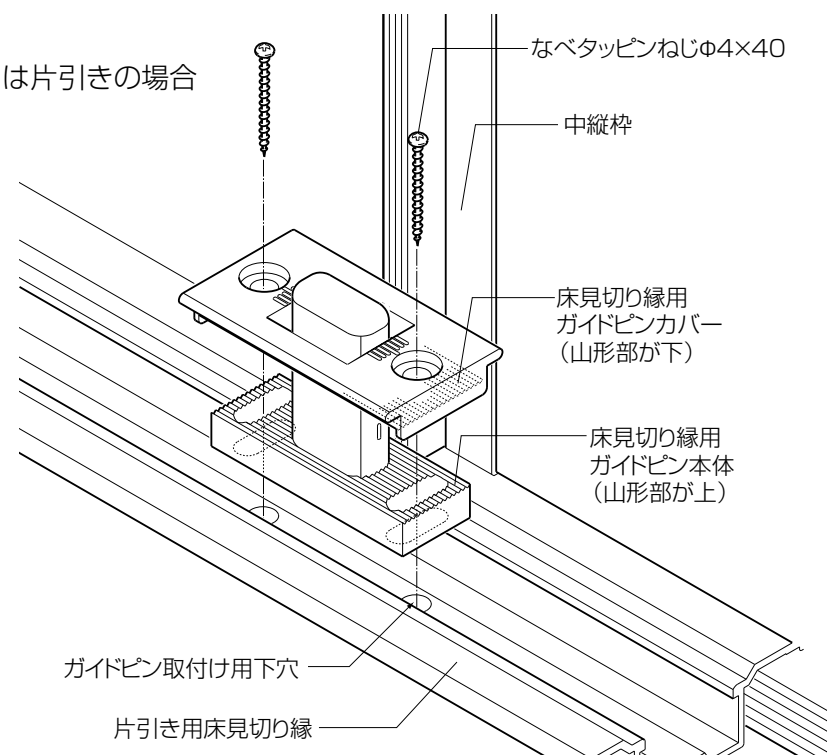
■B部詳細図



〔床見切り縁を使用する場合〕

- ※床見切り縁を使用する場合も同梱のねじ（なべタッピンねじφ4×40）で固定します。床見切り縁にガイドピン取付け用の下穴が、前図のようにあらかじめあいていますので、ガイドピンカバーとガイドピンの中心を合わせて下図のように固定してください。

※図は片引きの場合

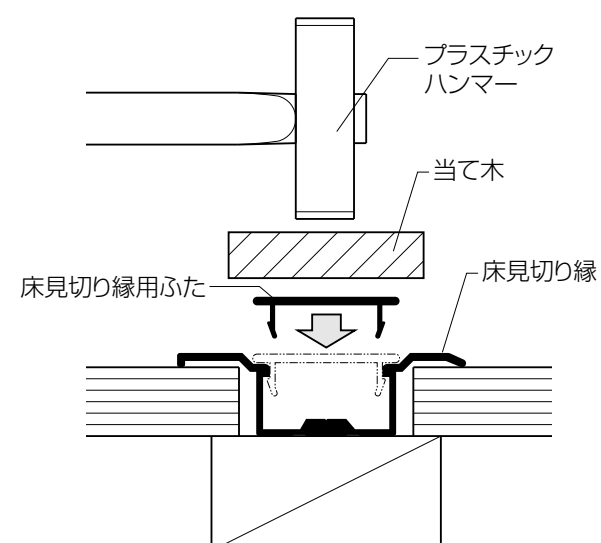


8 溝ふたの取付け(床見切り縁を使用する場合)

- ※床見切り縁及び床見切り縁用ガイドピンが正しい位置に取付けられているか確認してください。
- 溝ふたの端部が、床見切り縁用ガイドピンカバーにかからない位置に合わせて当て木をし、プラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。

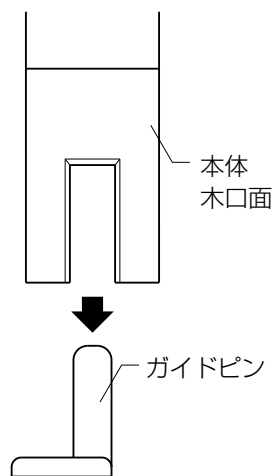
9 戸当りの取付け

- 戸当りに接着剤（現地手配）を付けて溝をふさぎます。
- ※戸当りは必ず床見切り取付後に取付けてください。
- ※片引戸については戸当りを縦枠側と小縦枠側で長さの異なる物を同梱していますので切断する場合は注意してください。

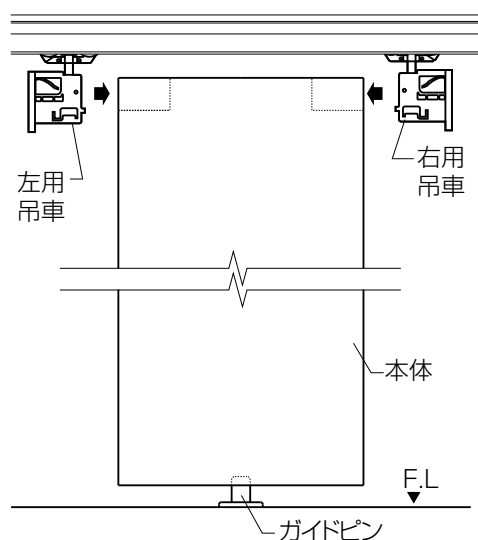


10 本体の吊込み

① 本体を持ち上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



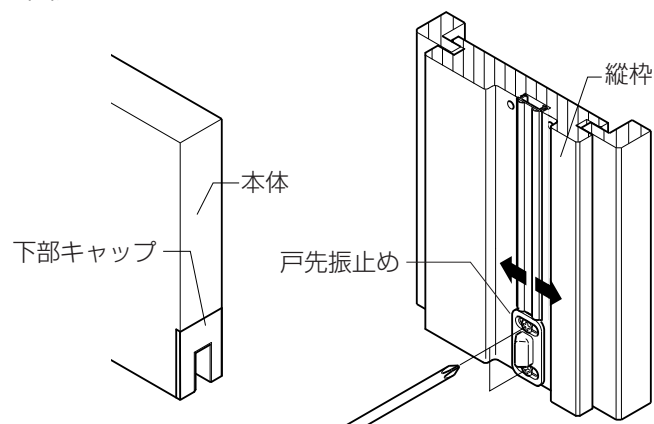
② 片側ずつ吊車を本体に水平に押し込むと、ワンタッチで取付けられます。
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。



③ 縦枠戸先側振止めの位置を調整します。扉を閉めて、振止めが本体下部キャップとはめ合わせを確認してください。入らない場合は振止めのねじを緩めて、位置を調整してください。

■戸先側振止めの調整方法

● 上下2カ所のねじを緩め、振止めを平行に動かした後、ねじを締め、固定します。



▲ 注意

● 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けない事を確認してください。押し込みが足りないと、本体が落下するおそれがあります。

■本体の建付け調整

● 本体の吊車には、上下方向及び前後方向の調整機能が付いています。

1) 上下調整 (調整幅+4mm、-1mm)

● ⊕ドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

2) 前後調整 (調整幅±2mm)

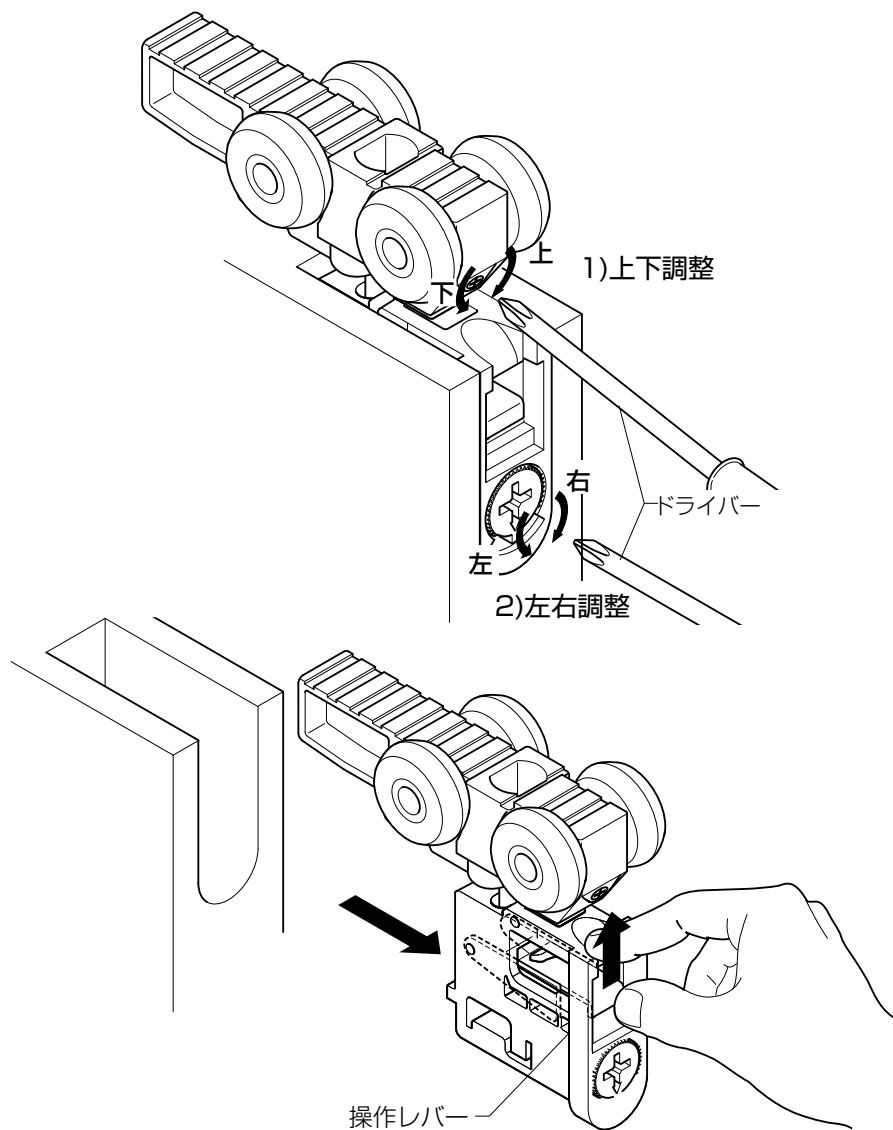
● 前後調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい (小さい) 場合 (標準チリ9mm) に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい (小さい) 場合 (標準チリ8mm) に実施してください。⊕ドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。

※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピン及び縦枠下部のブレ止めの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

■本体の取外し方法

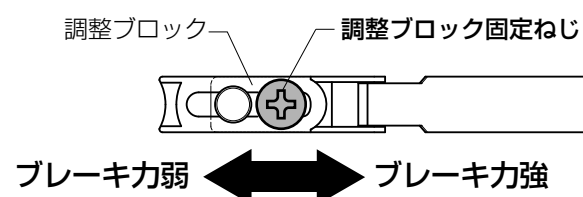
● 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引き抜き、取外します。

※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバー等を使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。



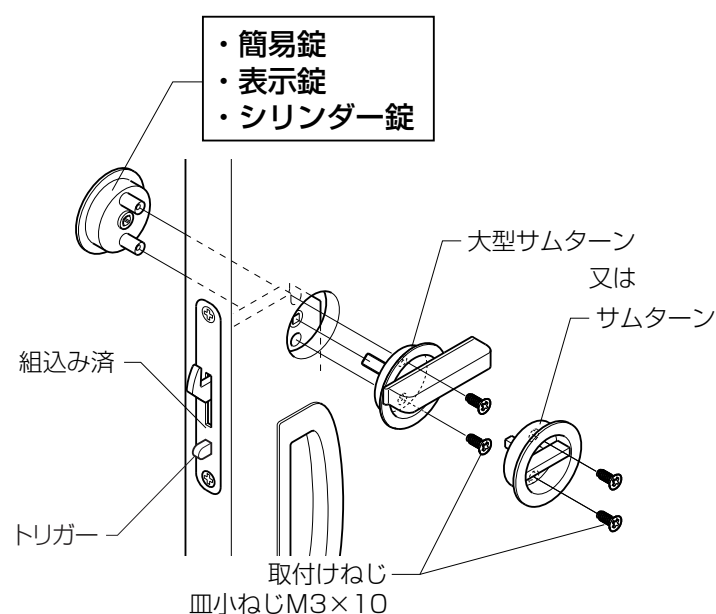
〔ブレーキ力調整〕

● 上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ブロック固定ねじを2回転まで緩め、調整ブロックをスライドさせて、ブレーキ力を調整してください。調整後は、固定ねじを締めてください。



■引戸錠の取付け

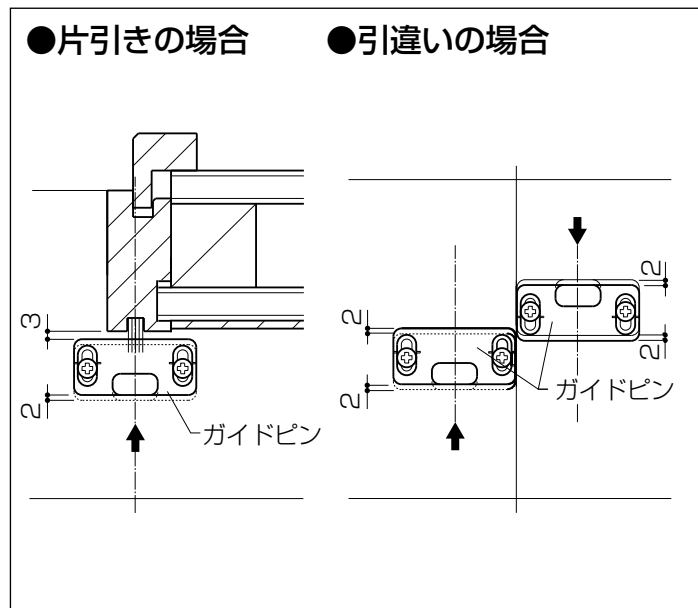
● 別売りの錠を右図のように組立ててください。
※取付けねじを締める時に、いったんトリガーを押えて閉状態にしてから取付けてください。大型サムターンの場合は、つまみを水平状態にしてから取付けてください。
※大型サムターンは表示錠のみの設定になります。



■引戸ボトムシール付きの調整方法

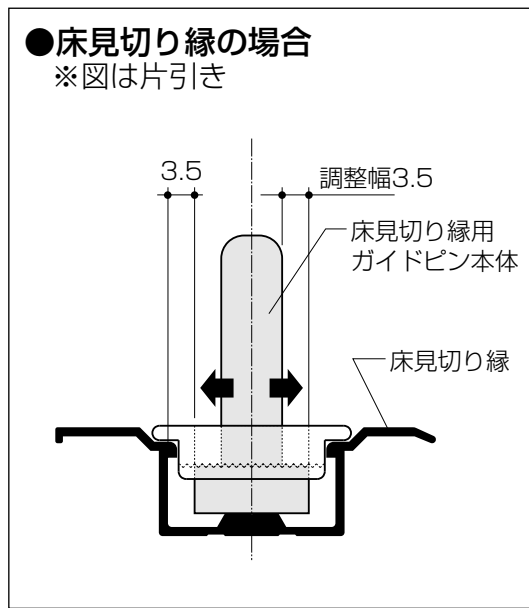
1) ガイドピンの位置調整

- ① 5 で取付けたガイドピンのねじを緩めます。
 ※片引き（標準・幅狭タイプのみ）の場合は、本体を外さずに全開と全閉の状態ガイドピンの調整ができます。
 ② ガイドピンを中縦枠側へ（引違いの場合は、枠の中心側へ）2mm移動し、ねじ止めします。



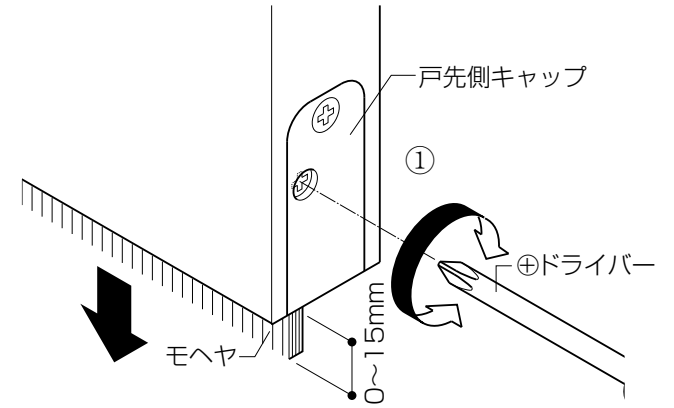
2) 床見切り縁用ガイドピンの調整方法

- 1) の調整方法と同じになります。
 ※ガイドピン取付けねじを緩めて、床見切り縁用ガイドピン本体のみを、左右に動かして調整してください。



3) ボトムシールの飛び出し量の調整 (0~15mm)

- ※調整は、本体建付け調整(特に上下調整)後に実施してください。
 ① 本体を吊込んだ状態で、戸先側木口面下部キャップの穴に⊕ドライバーを差込みます。内部の調整ねじを左に廻し、モヘヤ部を下げます。
 ② モヘヤの先端が床に接触する位置まで下げてください。(最大で15mmまでモヘヤ部は、下げられます。)



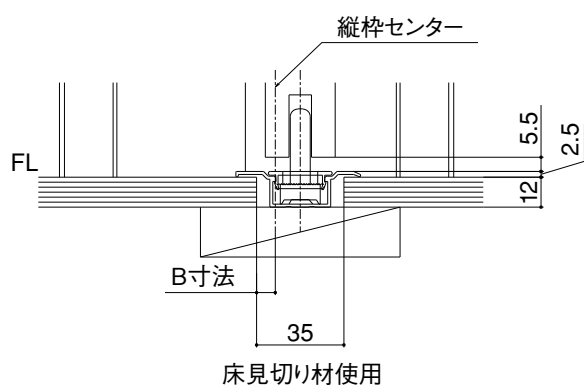
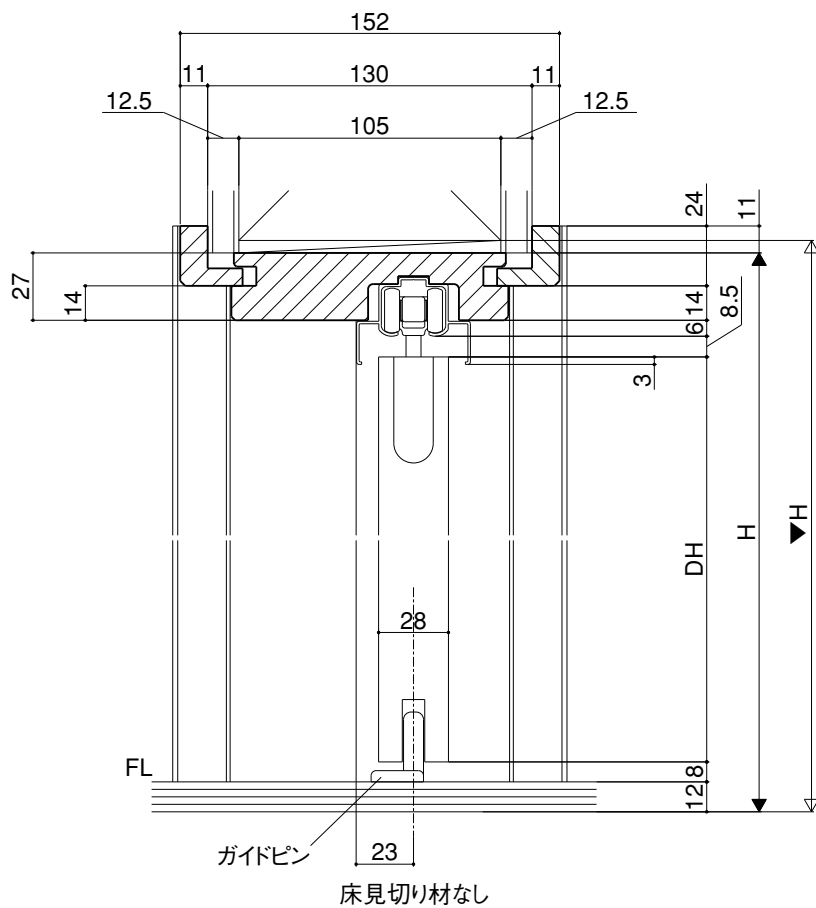
■バーハンドルの取付け（幅広タイプのみ）

※バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付説明書をご覧ください。

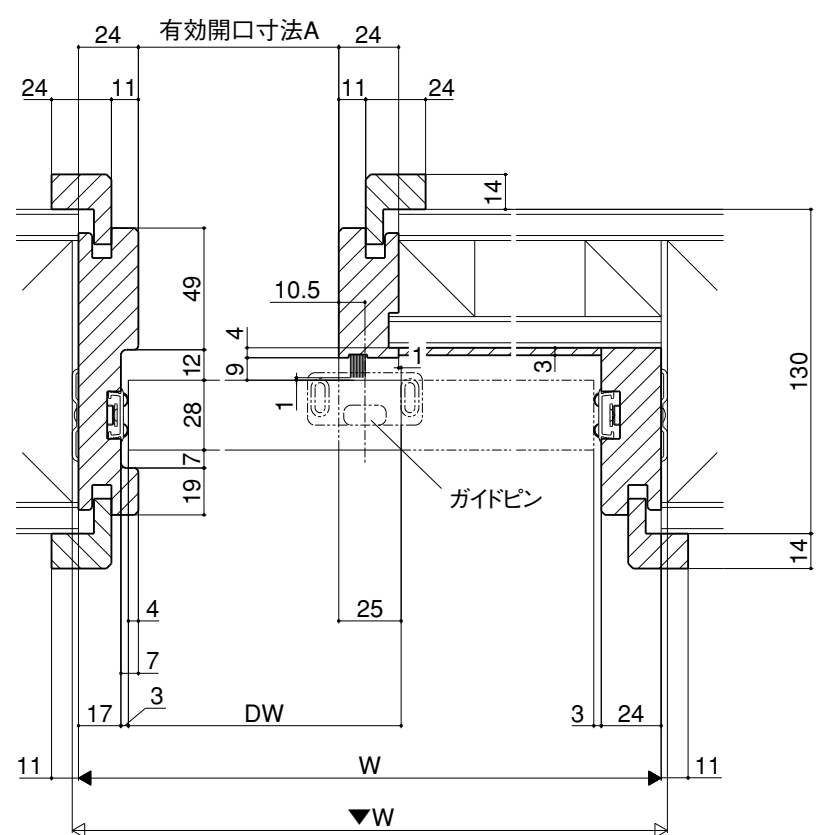
■納まり図

■上吊り片引戸標準・幅狭タイプユニット ケーシング付

●縦断面図



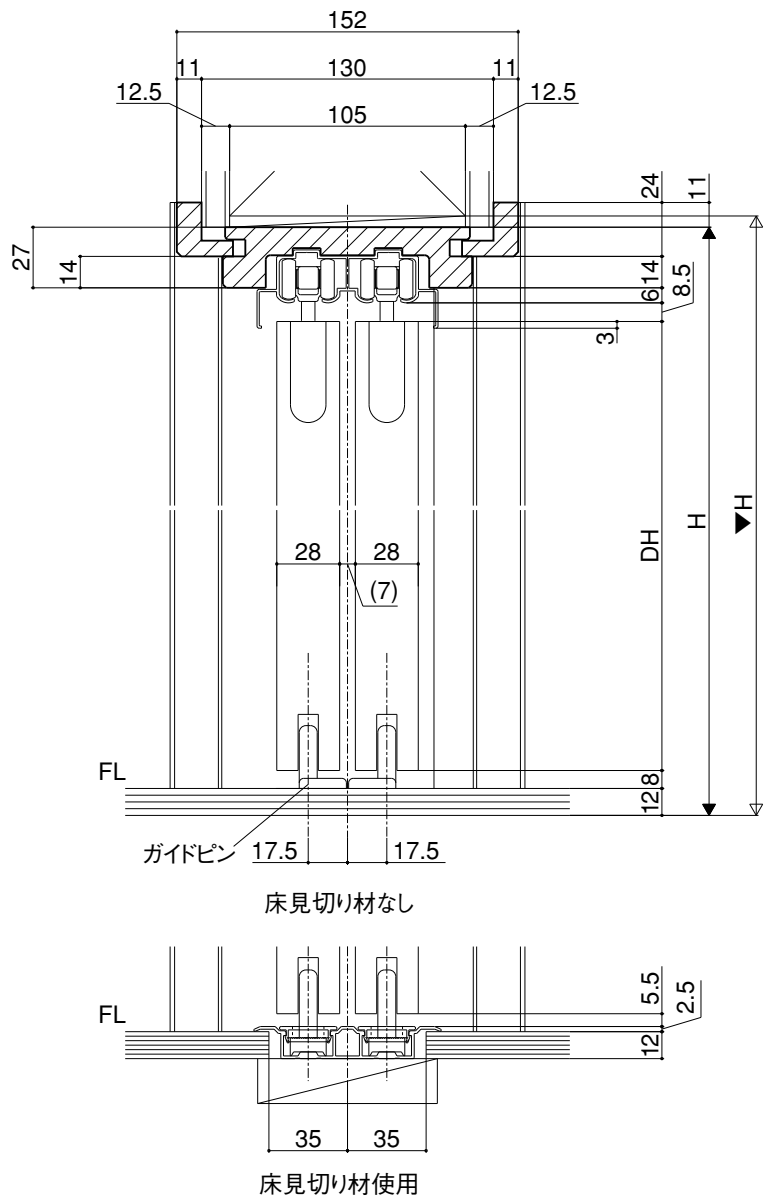
●横断面図



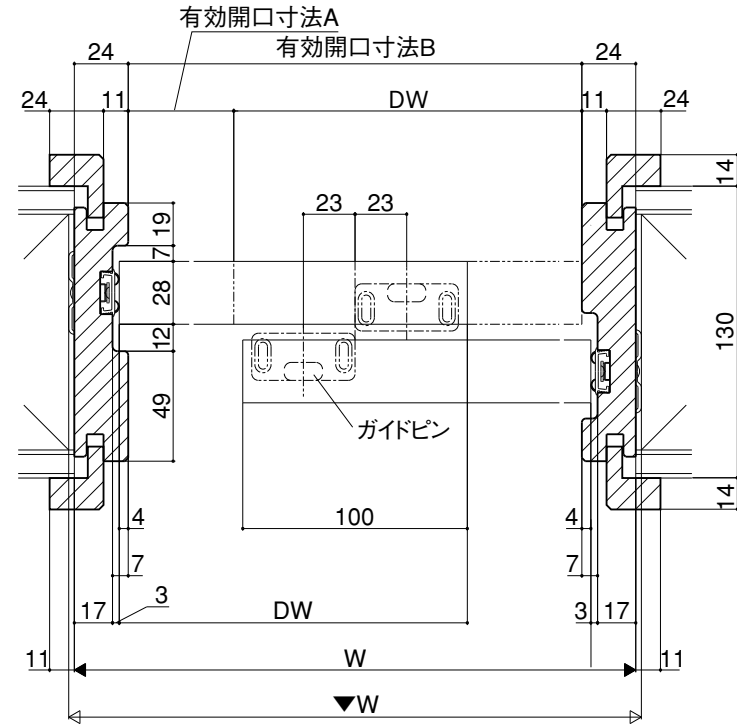
W呼称(枠外寸法)	A寸法
W12(1192)	556
W13(1324)	622
W14(1478)	699
W16(1644)	782
W18(1824)	872

■上吊り引違い戸ユニット ケーシング付

●縦断面図



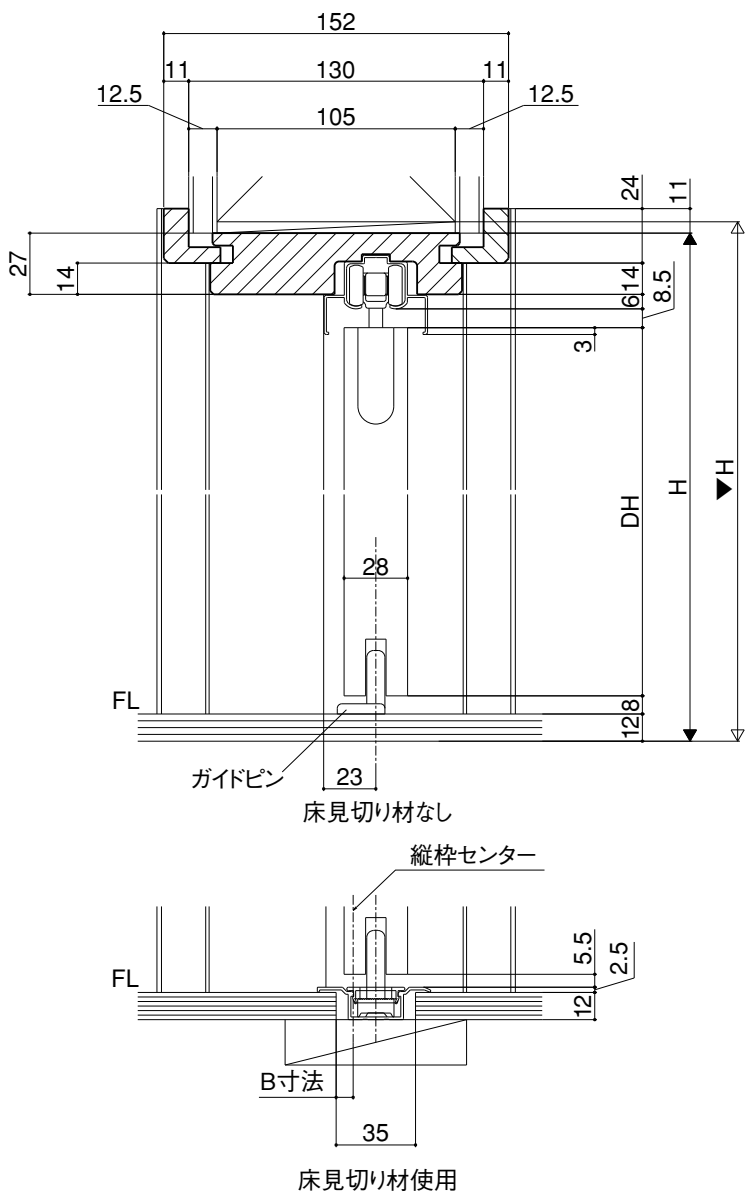
●横断面図



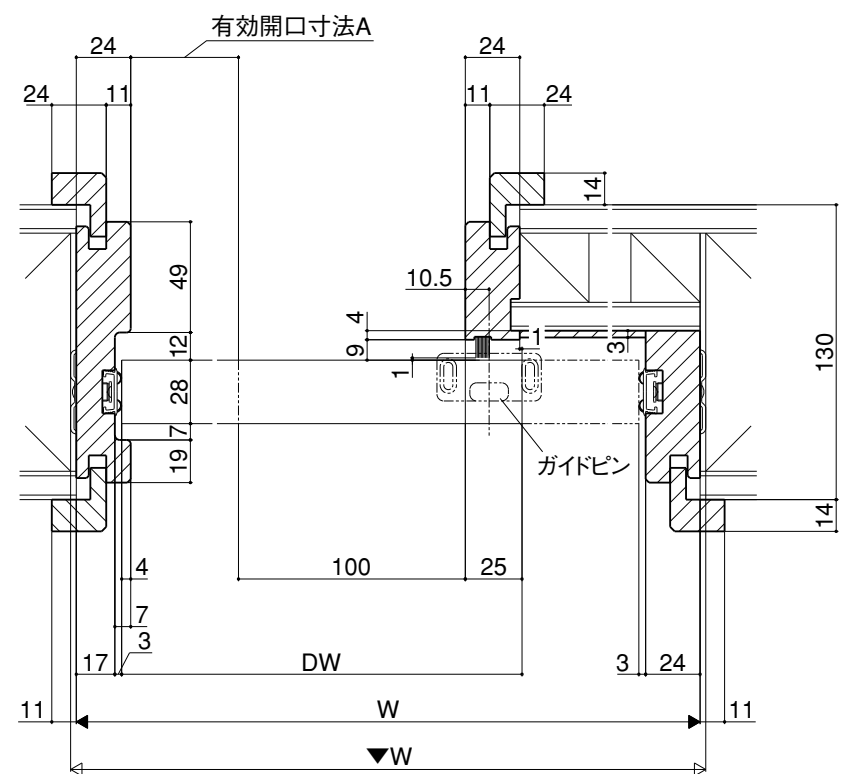
W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	744	1596
W18(1824)	834	1776

■上吊り片引戸幅広タイプユニット ケーシング付

●縦断面図



●横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法
W17(1688)	754